

れてある釣り燈籠と、參詣道の兩側の苔蒸した石の燈籠とに見とれるのである。しばらく境内のこの静かな風景に見とれてみると、どこからとなく清涼の氣が身に迫つて來るのを感じる。仰げば幾百年もたつたかと思はれるような杉の大木が、天をも衝くかのように聳えてゐる。

私は、數年前の春、奈良を訪れた時に、奈良を始め近畿の諸學校の先生達と、春日この春日神社の背後にある春日山に上る機會を得たのであるが、今は天然記念物として保存されてゐるこの神山にはひつてみると、まったく太古の森林の中をあるいてゐるような氣がした。そしてところ／＼に立てられてある火の用心の杭を見て、私達も永久にその森の保存されるを願つたのであつた。頂き近くの廣場からは、奈良盆地の一部とそこにある昔の平城京の址が廣く見下ろされるが、私は、この光景に見とれながら、千餘年前に私達の祖先が、この都を建てるために大きな計畫を行つた努力を



池の澤猿・良奈

幾度か思ひ出し、また感謝したのであつた。私は、奈良の古都を訪れる人達には、必ずこの春日山に上ることをすすめたい。奈良の町で、人臭くなつてゐる所を見まはるだけでは、ほんとうにこの古都の生ひ立ちなり、姿なりを見きはめることが出来ないと思つてゐる。

春日山を下りてから、その山麓の春日野公園をぶら／＼すると、春日山を背景としてゐるこの公園は、一面の芝生でところ／＼に高く聳えてゐる大きな杉や一位檜の特別に趣きのある姿によつて、他處で見られない風景があらはれてゐる。この風景があればこそ、神鹿の群れも畫中のものとなるのである。

歴史、美術、工藝の三部に分けて陳列してある奈良帝室博物館も、聖武天皇の御遺愛の貴重品を納めてある正倉院も、東大寺の本堂である大佛殿も、またありし昔には宏大であつた興福寺の面影をとゞめてゐる北圓堂や五重の塔も、三笠山や春日山とあ

はせ見ることによつて、古都としての奈良の姿が明かになるのであつて、それが奈良特有の風景であり、また遊覽地としての奈良の生命でもある。

かくこの古都は、その風景や歴史的の遺物や遺蹟に、いづれもその古さをあらはしてゐるが、その家構へとか什器などの生活の様子などにも、なんとなく古都の古さが偲ばれるような氣がする。

奈良驛から公園までの通りは、奈良市でも一番賑な所であるが、大きな旅館と、名物の奈良人形や鹿角細工などを賣る商店が、軒を並べて旅客を呼んでゐるのも、この古都の一つの特色である。

しかし奈良の都の古さは、奈良市の西方にある平城京の内裏址の森や大極殿址の芝生や七大寺として數へられた西大寺や菩提寺や薬師寺を觀ることによつて、一層床

しさが偲ばれる。かく舊都の遺蹟をさがしまはつてゐると、東南方に當つて、奈良盆地の平野の向うに、よく「萬葉集」に出てくる畝傍山とか耳無山とか香久山とか、繪にかいたような姿に眺められ、それが一層この奈良の古都を風景づけてゐる。

奈良からはや、離れてはゐるが、その西南にあたる法隆寺は聖德太子の建立であつて、その建築が、わが國での屈指な古い建築の標本であるばかりでなく、その壁畫もまた有名なものである。またその夢殿には、聖德太子の等身の像が置かれてゐるから奈良の舊都を訪れる人達の必ず參詣する靈場の一つとなつてゐる。

かくして、奈良市とそのまはりに廣がつてゐる風景と、その間に殘されてゐる遺物と、神社、寺院等の遺蹟に、また現在その間に生活してゐる人達に、古都の舊さを探

り得るのであるが、私達は、昔の祖先が、このように田舎をつくり、またその中心として都會を築くために費した多大の骨折りを見るにつけても、新しく生ひ立つてゆくわが日本の將來のために、田舎をつくり、またその中心としての都會をも育むことに進まなければならぬ。奈良の都と、そのまはりの古さを顧みて、古き美しさにばかりあこがれることは、この古さを残した私達の祖先の志に添ふものではない。

京都は、七十餘年間都であつた奈良が、手狭になつたといふので、桓武天皇が新都を遷された所である。やはり盆地であるから、南の他は山地に圍まれてゐるが、こゝに、比叡山のある東山の山地は、京都を見下すように京都に迫つてゐる、「東山三十六峰」とか、

蒲團着て寝たる姿や東山

などといふのは、京都に近いこの東山連山の姿を歌つたもので、京都驛の東方に當つ

て見えるこの東山は、瓦屋の重なり合つてゐる京都市の背景として、京都を特色づける一つの風景である。さればこそ、この山の根に近い京都市の東部を流れる賀茂川岸からは、この東山の殆んど全景が見られるので、賀茂川岸は昔から京都での一つの名所となつてゐた。夕納涼みはことに名高いもので、「日本外史」を書いた頼山陽は、この賀茂川の右岸から東山を望み得るところに居を卜してゐて、そして「山紫水明樓」と名づけてゐたといはれてゐる。私は今日保存されてゐる此の舊居を訪ねて、今更ながら明治維新の原動力となつた此の著述が、こんな小さな書齋で完成されたのには驚かされた。

まつたく、京都は山青く水の清らかな、そして空氣の澄んだ風の弱い萬事落ちついた別天地である。

だから、京都の近郊には東山の他にも風景のよいところが多い。ことに桂川に沿う

てゐる嵐山の邊は、賀茂川と違つて、山は峙ち水は豊に、眺めは狭いが、實に山水明媚なる言葉を目のあたりにあらはしてゐる。

私は、かつて嵐山の上の大飛閣に、妙心寺にをられた竹馬の友であつた禪僧巨君とともに、茗茶を啜りながら京都を見下し、また比叡山の上から琵琶湖と京都の盆地とを見比べたことがあつたが、京都の地勢は、いかにも昔桓武天皇が仰せられた「山河襟帯の地、自然の城廓なり」といふお言葉の意味に、すつかり當てはまつてゐるところが、高い山地からの展望によつてよくうなづかれた。

かく京都の東、北、西の三方を取り圍んでゐる山々の麓には、東には泉涌寺、知恩院、南禪寺、清水寺、銀閣寺、北から西にかけては、上賀茂、下賀茂、北野、建勳の諸神社と、仁和、大覺、妙心、天龍、金閣の諸寺とが、あちらこちらに散ばつてをつて、これ等の社寺の建築や築庭は、その所藏の佛像や什器や圖書とともに、日本の歴

史、宗教、工藝などの特色を物語るよい材料であるから、私達は、京都の近郊を散歩することによつて、奈良よりも、もつと大仕掛けな日本の古い都會の風景と祖先の残した爲事の跡をたどり得るような氣がする。

京都の町の中でも、北の方の上京の中には、御所を始め、廣い境内と特別な構へをしてゐる大きなお寺や神社が、ところ／＼にあつて、その他には昔風の大きな邸宅が多いから、他の都會に見られないなんともいはれぬ静けさと落ちつきを示してゐる。なほ京都の町の内で、私達の見逃してならないものは、そこからつくり出された工藝品の數々である。西陣織り、友禪染め、清水焼き、栗田焼き、蒔繪、扇子、短冊など、このように名稱だけをかきつらねるだけでは、京都特有の工藝品としての感じは起らないけれども、京都風に意匠を凝してゐる店々の飾り窓に、このような工藝品が色においても形においても、趣きのあるものがならべられてあるのを見ると、私達は

どことなく優雅な京都の特色が、そこに浮んでゐるような氣がするのである。

一千五百餘年も、日本の帝都であつたこの京都の古さの特色は、僅のページに書き盡されるものではない。今上天皇が京都で行はせ給うたかの壯嚴にして古典的な御即位の御儀式の次第を承るだけでも、私達は、京都といふ都會は、わが國の都會の中でも、最もその古さを永久に傳へ得る歴史と使命とを持つてゐる所であるといひ得る。川の少ない奈良の盆地では、豊かな水の色を見ることが出来なかつた。だが、京都に来ては、賀茂川でも、保津川でも、またこれらの川からひいた用水が町の中を通つてゐる様子にでも、また近年琵琶湖からひかれた運河の水にでも、流れる清い水の姿と趣きとを見ることが出来るのは、京都の風景が奈良にまさる一つでなければならぬことに、京都市の南の端に、琵琶湖から出て来る宇治川が流れ、またこの三つの川の流れが合ふ所に、河港淀が生ひ立つてゐることは、京都なる都會の舟運を考へさせら

れるばかりでなく、昔の要害としての宇治川に因んで戦争——宇治川の先陣——とかまた水郷としての風景——舟遊びと螢狩り——とか、史蹟——平等院——とか、川に因んだあまたの風景が眼の前に開かれて来る。

すべて古い都會は、新しい都會ほど年々生長してゆく力はない。しかし古い都會をよく見ることによつて、私達は、私達の祖先の都會を作り上げた骨折りと、都會の生ひ立ちを知ることが出来る。いやそればかりではない。古い都會をよく知ることには、また新しい都會の生ひ立ちをも理解する鍵を握ることである。

大都會における人の動き

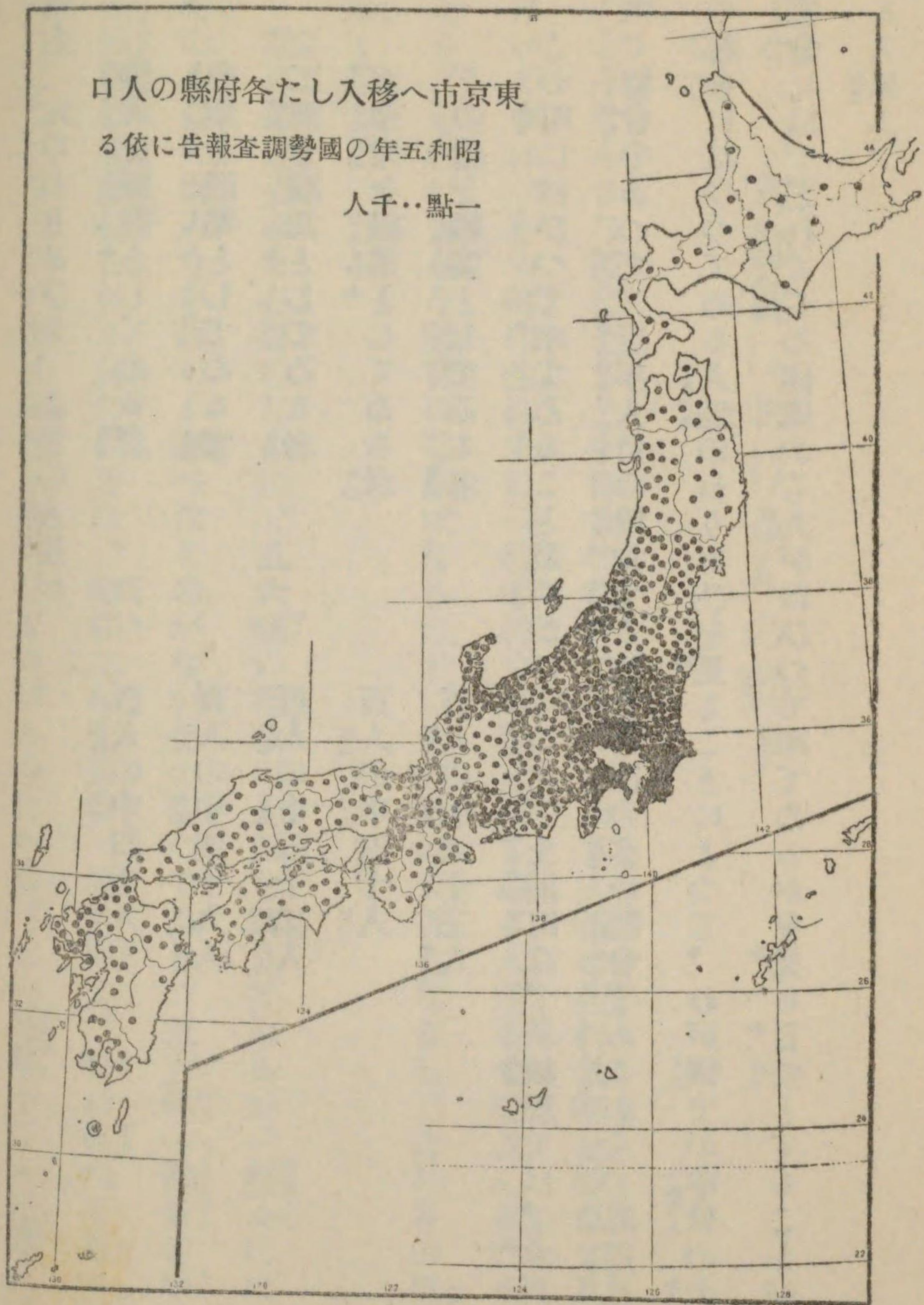
どんな小さな都會でも、今日その都會に住つてゐる人達の生れ故郷を尋ねて見ると、たいていは、その町に生れずに、他の村や町から來てゐる人達がすいぶん多いものである。それが大きな都會になればなるほど、その數が大きくなるし、またその出入が繁くなる。

私は最近、ある必要のために、五六縣の都會の人口を調べてゐるが、町々にはその町の人口の出入りを詳しく調べたものがないので困つてゐる。五六縣の都會の中で、茨城縣の土浦町といふ所だけでは、昭和二年十月の一箇月間で、町に住つてゐる現住人口について、その生れ故郷を調べたものがあつたから、その結果をこゝに擧げて見

ると、左のわりあひで、よその人達が、

農業を職業としてゐる者	百人の中四十人
商業を職業としてゐる者	百人の中四十九人
工業を職業としてゐる者	百人の中五十二人
水産業を職業としてゐる者	百人の中五十人
その他を職業としてゐる者	百人の中六十三人

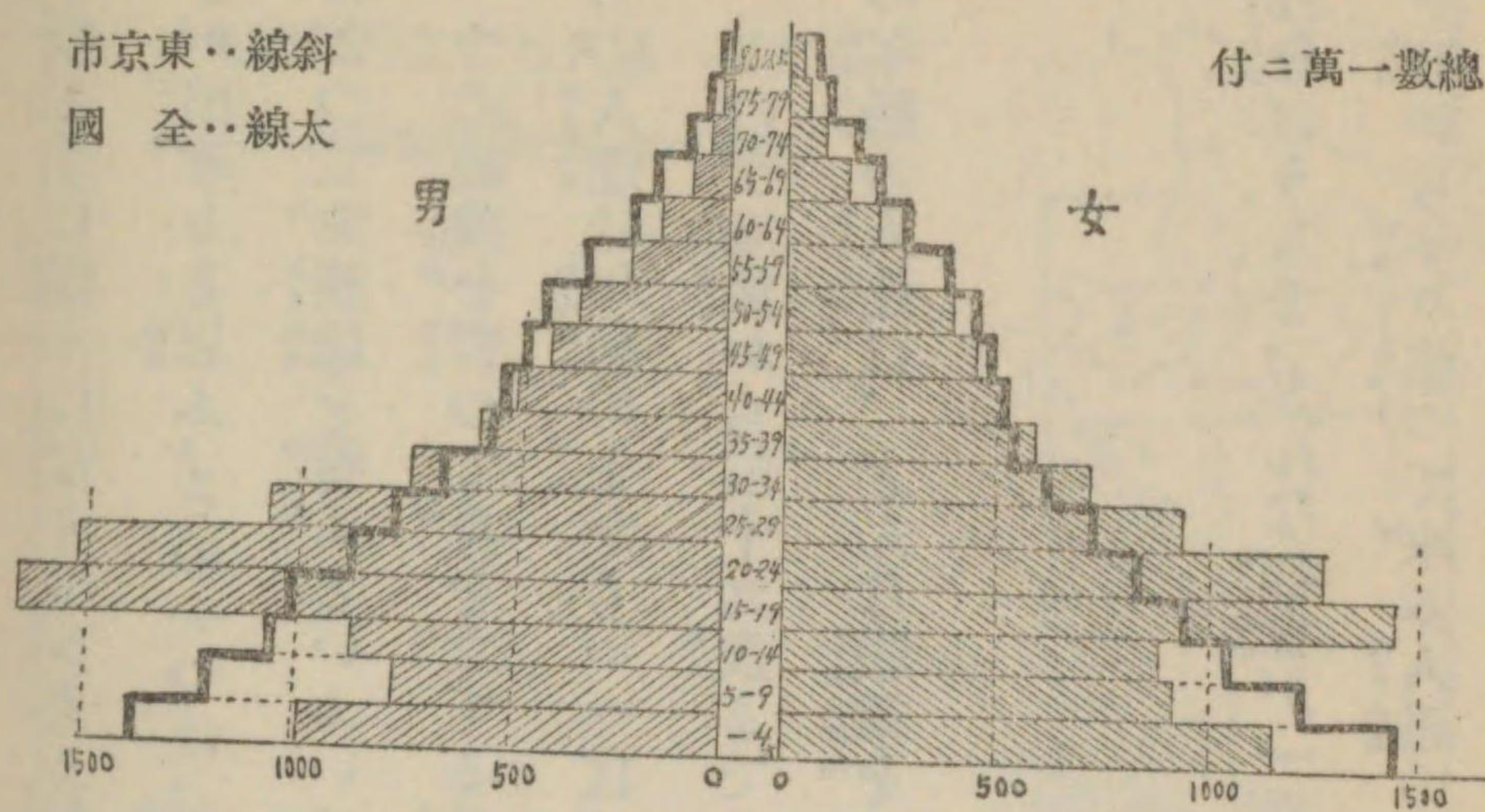
この町にはひつて來てゐることが明かになつた。土浦町は、茨城縣では、水戸市に次ぐ都會であつて、近年人口の増加するわりあひの多い都會であるから、私達は、この都會にはひつてゐる人達のわりあひを見ることによつて、わが國での中位の大きな都會には、どれくらゐる他處から人がはひつて來てゐるかを見る目安とすることが出来ると思ふ。



このように盛んになりつゝある都會に集つて來る人達は、大體二つの種類に分けることが出來ると思ふ。その一つは、何か一つの職業によつて、自分の身を立て、またそれによつて家族達を養ふといふいはゆる働き盛りの人達であり、これに次いで、何か一つの職業を習つて身を立てる基を築かうとして、丁稚奉公に來る人達である。これらの人達は年齢の上からいへば、十五歳から五十九歳までの間の人達が多いのである。この十五歳から五十九歳までの間の年齢の人達を生産年齢級人口とよぶ。それはこの年齢の人達は、どんな職業をもつてをるにしても、一番働き盛りであるからである。

都會のうちで、どんな都會が一番大きくなつてゆくかといへば、土浦町と同じように村や町から年々集つて來る人達の多い所である。しかもその集つて來る人達はたいが

表 成 構 齡 年



付 = 萬一數總

市京東・線斜
國全・線太

いは生産年齢級の人達であり、また生産年齢級の人達によつて養はれてゐる家族達である。だから大きい都會ほど、人口の増加してゆくわりあひが大きい。

かくして大きな都會ほど、人口が増加してゆく。私達は、わが國で一番大きな都會である東京市と、これに次ぐ大阪市について、その人口の動きを見ようと思ふ。

東京市の人口は、大正九年の國勢調査の當時は二百十七萬餘に達したが、同十二年の大震災のため

めに、十四年の國勢調査の際には百九十九萬餘、すなはち大正九年の九割二分に減じた、しかし復興に伴つて漸次増加し、ことに復興事業も完成し、昭和八年十月には周圍の郊村を合併して從來の十五區の外新に三十區を得たから其の人口は五百四十八萬六千二百十人に達した。

私達は、大都會としての東京市の發達を見ようと思へば、もとの東京市をめぐつてゐる近郊の町村の人口の増加を比較して見なければならぬ。このような近郊の町村の人口の激増は、直ちにそれが、住居の密集となつてあらはれて來る。ことに東京市に接續してゐる町において、それが著しく目に立つ。私達は、東京驛から發着するいはゆる省線電車に乗つて、沿道の接續町に於ける住居の密集してゐる状態を見ただけでも、それが明かになるのであるが、ことに、朝の出勤時間における各驛の乗客、また夕の退出時間における各驛の降客が、まるで蜘蛛の子のように

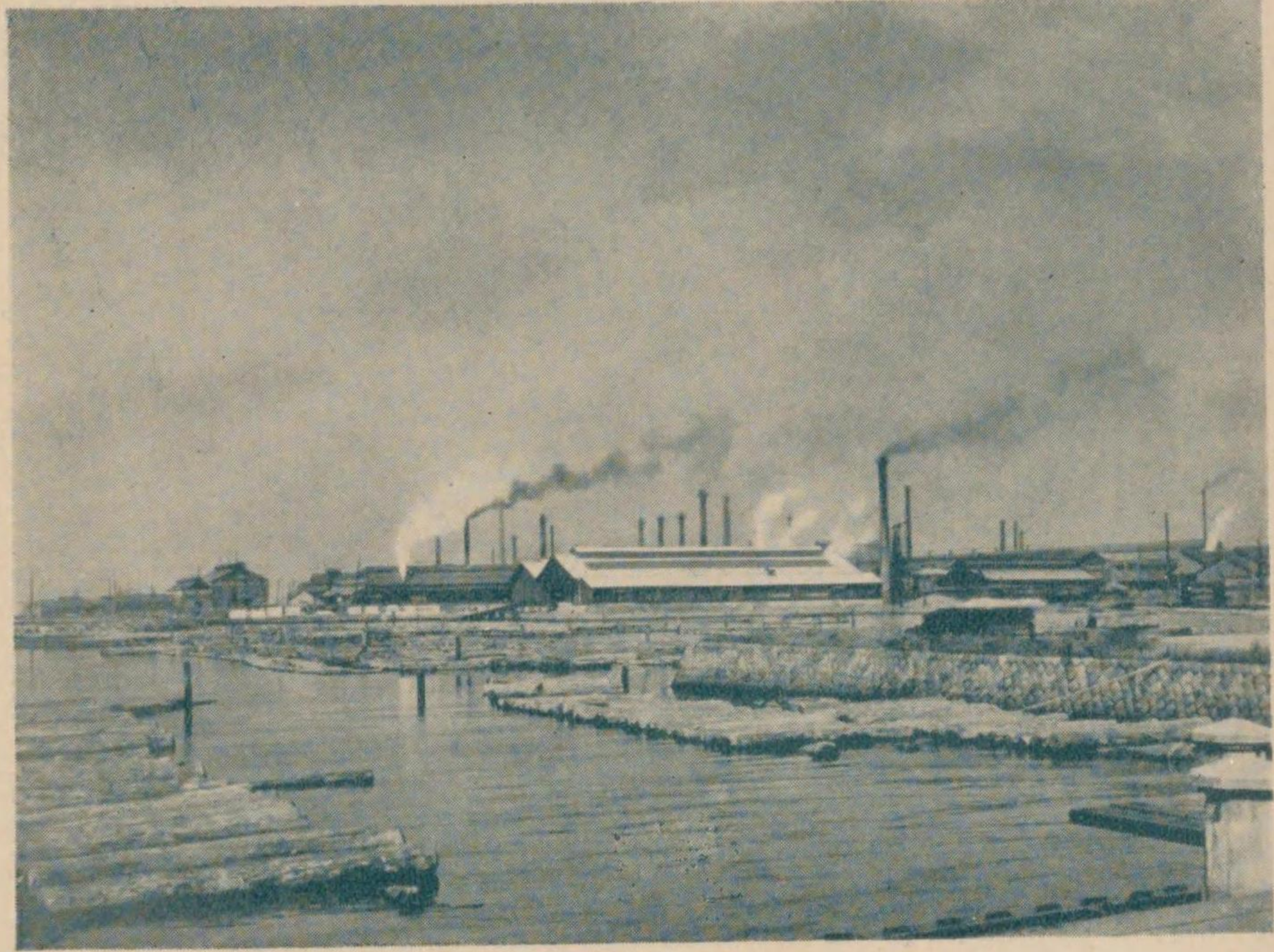


ムーホトツラプと口入出の鐵下地

集散する状態からしても、これを證據立てることが出来る。

かく接續町を始め、その他の近郊の町村の人口の増加にうながされて、またその需要をみたすために、新にあらはれて来るものには、日用品を賣る商業地の繁昌と交通機關の發達とである。すなはち商業地としては、省線の澁谷驛附近、新宿驛附近、大塚驛附近などは、東京市内の大商業地區と同じ賑かさを商業の上に見るようになつて來た。また交通機關としても、それらの三驛はもちろん、その他の諸驛に於ても、そこを中心としての私設の電車や自動車の開通を見るに至つた。

このように、東京市に接續してゐる町々は、その人口の増加につれて、商業地區の繁昌と交通機關の發達を見、日々それによつて、幾千幾萬の人口の出入と集散の動きを示してゐる。是等の都市的地域の中でも、例へば隅田川に沿うてゐる工場が多い町々と、武藏野に續いてゐる住宅地の多い町々によつて、そこに住む人達の



阪 大

職業に、また風習に著しい相違のあることを考へなければならぬ。

東京市に限らず、大きな都會の發達は、かく人口の大きな増加とその大きな群集とが、産業の進歩と、交通機關によつて、年一年と形造られてゆくのである。

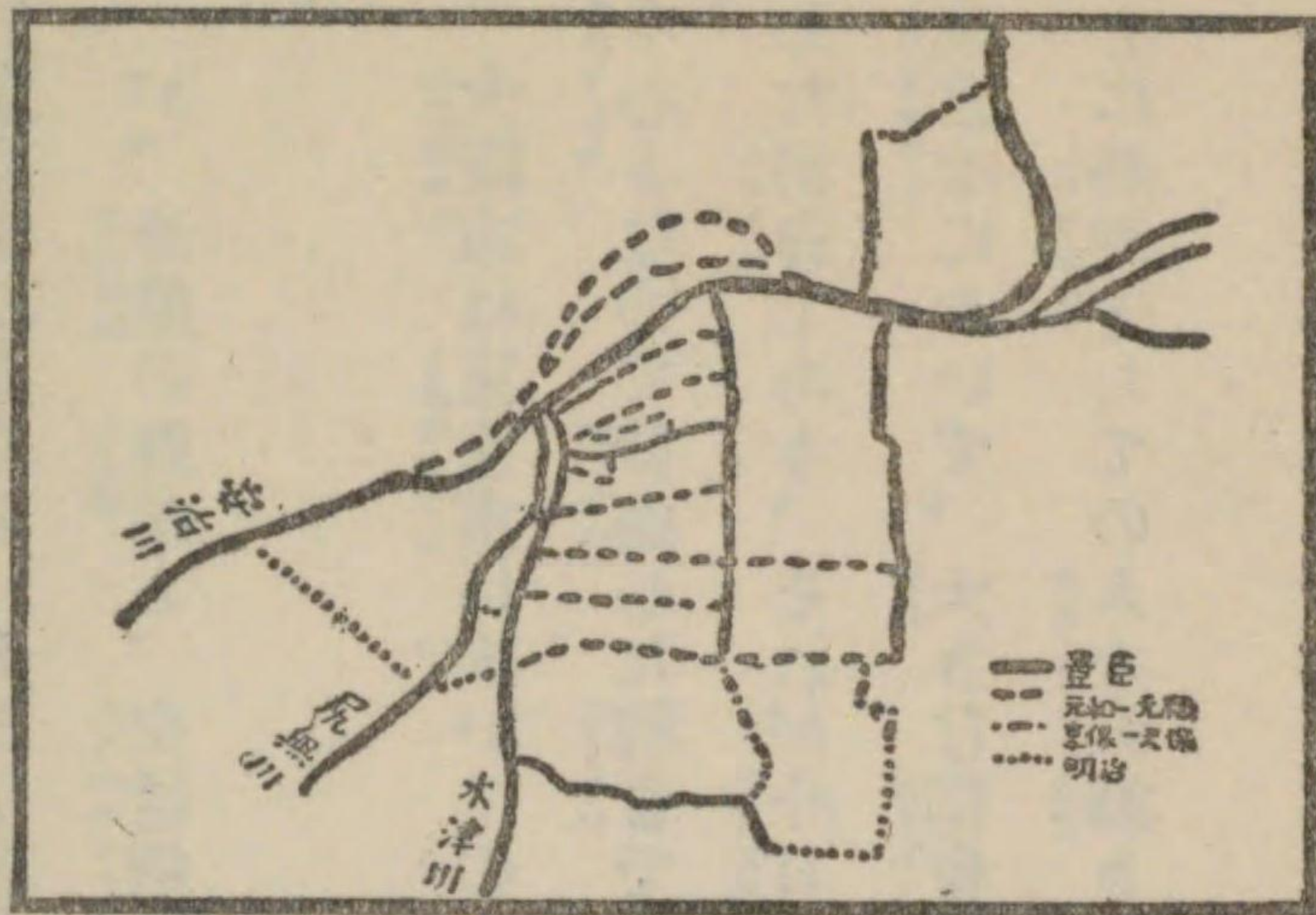
大阪市は東京市に次いで大きな都市である。しかし東京市は徳川時代から政治が中心となつて發達した都會であるのに、大阪市は商港としての特色が主となつて發達した都會であり、それが今日でも、この大きな都會を發達させる基となつてゐるから東京市において、大きな都會における人口の動きを見た私は、大阪市については、ことに商港としての人々の動きを見たいと思ふのである。

大阪港は、畿内の平野を流れて大阪灣にはひる淀川の河口の洲に生ひ立つた町で、

「津の國」とか、「なにはの津」とかいふ古い名によつても、その生ひ立ちを證據立て

てゐる。かく大阪は河の港であるとともに海の港でもある。豊臣秀吉が堺の商人を大阪に移し、徳川時代になつてこゝに諸般の藏屋敷を置くようになつてからは、その河海運輸の地の利は、ますます各地の物産の集散を大きくして、この商港を一層發達させたのであつた。

大阪港に集つたものは各地の物産ばかりではなく、商賣で一身を起さうといふ人達も諸國から集つて來たことは、今日その屋號とか町名とか川の名とか橋の名とかによつて知ることが出来る。かく商業が盛んになるにつれて、物貨



(る據に氏古佐)圖布分路水の市阪大

の運輸を便利にするために、水路の掘り割り盛んに行はれた。例へば豊臣時代には淀川の本流の他には、僅に東横堀川、西横堀川、阿波座堀川、天満堀川の四つの水路しかなかつたものが、徳川時代になつてから盛んに水路が開かれ、四通八達の状態になつた。大阪市の河川の九分九厘は元禄時代に完成されたといはれてゐる。かくてこの商港は、あまり人口が密集し過ぎて、今日の都市が、その周囲の土地を市區に擴張するようになり、その周囲の新地が盛んに開發されたのであつた。

かく徳川時代に商港として發達した大阪は、明治になつて、陸運としての鐵道、ことに海運としての航海の發達と共に一層の發達を見るに至つた。私は二十餘年前の大阪港と今日における大阪港との海運の相違を、私の印象によつて、證據立てたいと思ふのである。

二十年前に大阪にいつた當時は、船舶の出入口である安治川口は、今のよう綺麗

なコンクリートの岸壁になつてをらず、雨のふる日などは實に道路が悪かつた。當時私の書いたものに、

大阪商船會社の横通りは、すぐ安治川岸だが、その川岸は何町といふ間、屋根の懸つた荷揚げ場で、船の發着の時は、客の乗降やら荷物の揚げ卸しで雑沓する。雨の降りしきる路のどろ／＼した時でも、五人や十人の人夫が柄の長い幅のほそい荷車を曳いてをらぬ時はない。この河岸には、いつも千とん内外の船が三艘も四艘も横づけになつてゐるので、それから立ちのぼる煤煙のため、空はなんとなくどんよりしてゐる。こんなところも、夜になると晝間の雑沓にひきかへてひっそりするが、船の舳につるしてある大きな提灯の光がいかにも陽氣である。提灯の丈は三尺もあるが、目に立つように徳島行き、淡路行きなどと筆太にその夜の航海先を示してゐる。町の片側には、船宿を始め、大阪名物の栗菓子や蜜柑や雜貨などを賣つて

ゐる小店が、六七軒、夜遅くなるまで店を張つてゐる。こゝら歩いて見ると、私は今更ながら大阪の港が、毎日々々たくさんの船で四國や中國の旅客や荷物を呑み吐きする力の偉いのに驚かざるを得ない。

しかるに最近、私が大阪港から四國の高松にゆかうとして、この安治川口の築港にいつてみると、二十年前とはまるで違つて、安治川口の左岸に沿うて突き出た、町並の整つた三條通りが出来て、掛け橋近くまで電車が通じるようになってゐた。三條通りには、航海の出入に必要な運漕店とか旅館とか出てゐる上に、新に大阪府の測候所までも設けられてゐるのは、實に組織的となつたことを證據立てゝゐる。

このように、大阪市は港としての大きな都會として生ひ立つたとともに、また種々の工業ことに綿絲、綿織り物の産地となり、その産額は全國第一となつてゐる。その種類は綿絲の他、白木綿、綿織り物、たをる、いやつ、すばんだなどがあつて、國內

の需要をみたすばかりでなく、支那をはじめ海外にも輸出されることが夥しい。だから大阪市における人口の動きは、この港としての働きと工業と商業の盛んなことがその主なる原因となつてゐることを忘れてはならない。

私は、大都會の動きとして、こゝに東京と大阪を説いたに過ぎないが、大小の違ひはあるにしても、このような動きが、皆さんの郷土に近い都市にも、それ／＼現はれてゐると思ふ。

都市計畫

都會は、田舎と比べると、そこに住つてゐる人達の住居が著しく密集してゐる。そして都會が大きくなればなるほど、その人口の増加のわりあひが大きくなり、またその密集の程度もはげしくなつて来る。これらの人達のために新に澤山の宅住も必要になつて来る。従つて宅地に要する土地も、従来よりは遙かに広い所が必要になつて来る。それに新に電車とか自動車とかで通ることになると、従來の狭い道幅では、不自由だから、それを取り擴げる必要が起つて来るし、また新に工場を設けたり市場を置くことになると、その敷き地をも工夫しなければならぬことになる。今まで井戸水を飲料としてゐた都會の人達は、衛生上から水道を設けることになると、現在の都會の人

口が將來どのくらゐのわりあひで増してゆくかといふことをも考へて、水道を設計しなければならぬことになる。

このように、同じ都會であつても、人口の集り方や、増し方の激しい都會に對しては、國家としても、またその都會に住つてゐる人達としても、相當に都市としての計劃を立て、爲事を進めてゆかなければならない。それが大きな都會になればなるほどその計劃が必要になつて来る。これを都市計劃といふのである。

歐米諸國では、これに對しては、國家も、また都會それ自身も、その都會の生ひ立ちや生活を考へながら、都會の現在と將來に對しての計劃を立てる事になつてゐる。わが國でも、この都市計劃についての法律を施行することになつたのは、大正九年

五月であつて、まだ二十年にならない。大正十一年の五月に、内務省都市計劃局から公にされた「都市計劃書要鑑」といふ本には、東京・京都・大阪・横濱・神戸・名

古屋の六大都市の都市計劃について詳しく述べられてあるが、そのはじめの言葉に、

日本は、明治維新以來、歐米の文物や制度を輸入して熱心に國運の進展を計り、

今や諸般の事物は、歐米の列強に比べて、遜色ないほどになつたが、ひとり都市の

現状を顧みると、歐洲の第三流國にだも及ばない。都市は、その興るに先だつてこ

れが計劃を立てると、勞は少くして功が多い。しかし都市が成つてから後にこれを

改造することは、費が大きくて、効果が少い。しかるに、わが國の都市は主として

明治以後に非常な發達をしたのであるから、今になつて都市計劃に着手することの

晩かつたことを歎ずる次第である。これまでわが國の都市の改善があまり進まな

つた原因は、いろいろあつたであらうけれども、國民が都市に關する知識の不足な

ことに基いてゐることが最も多い。

といふ意味が述べてあつて、なほ、

都市計画の本領は、都市を一つの生きたもの(有機體)と見て、これに對してあてはまつた(合理的)設計を立てるのにある。都市の道路や、港灣や、鐵道や、水道等を、別々に離れてゐる爲事と見ないで、これらを都市に築き上げる一つ一つの要素と見て、その連絡なり統一なりを計るのが都市計画である。

と附け加へてある。なほこの書物のはじめにある山縣都市計画課長の序文には、

攝政宮殿下が五月一日に霞關離宮にお召しになつて、都市計画について、二時間もお聞きになつたうへ、親しく御言葉を賜つたことは、感謝に堪へないことで、殿下が、常に都市の改善と市民の幸福をお思ひになつておいでになることを拜するにつけても、私達、都市計画に従事してゐるものは、日夜奮勵努力しなければならぬ。

と述べてある、殿下が陛下におなりになつてからも、東京市政調査會長後藤伯爵をお

召しになつて、市政のことについてお聞きになつた。

早くから、わが國で都市計画の施行されてゐる都會は、以上の六大都市の他、

- | | | | | | | |
|------|-----|-----|------|-----|-----|------|
| 札幌市 | 函館市 | 小樽市 | 仙台市 | 新潟市 | 長岡市 | 富山市 |
| 長野市 | 松本市 | 静岡市 | 濱松市 | 清水市 | 高岡市 | 金澤市 |
| 豊橋市 | 岡崎市 | 一宮市 | 岐阜市 | 大垣市 | 津市 | 和歌山市 |
| 岡山市 | 広島市 | 下關市 | 高松市 | 丸龜市 | 高知市 | 福岡市 |
| 大牟田市 | 戸畑市 | 長崎市 | 門司市 | 小倉市 | 八幡市 | 若松市 |
| 佐世保市 | 熊本市 | 大分市 | 鹿児島市 | | | |

の三十九市であつたが、其の後、昭和八年に法律が改正されて、全國の都市といふ都市全部に施行されることになつた。

都會の人達は、都市計劃によつて都會の動きが順序立つて行はれ、その生活が改善せらるゝとともに、その古さもよく保存せらるゝように努めなければならぬ。そして、都會の動きや生活に對して、常にその力や食糧を供給してくれてゐる田舎の人達に向つて、都會で出来るもので、田舎の人達の役に立つ種々の贈り物をなすことによつて、その感謝の意味をあらはさなくてはならない。

都市計劃は、最初は大きな都市にばかり行はれてゐたが、昭和八年の改正後に人口一萬以上を有する町、即ち市に准ずる程の町にも都市計劃を施行する事が出来るやうになつた。また農村にも農村としての計劃が企てられるやうになつた事は、日本の國民生活を組織的にしようとする大きな企の現はれである。

都市民學校と國民高等農學校

田舎と都會とは、一國の生活の上からいへば車の兩輪のごときものである。田舎は田舎らしく、また都會は都會らしく、そして兩方とも、いきゝとのびてゆかなければ、その國のほんとうの發達は望まれない。

田舎の生活をよりよくするために、田舎で働く人達に教養を施す學校として、これまでわが國に多くの農學校が建てられた。ことに最近ではデンマーク式の勞働を主とする國民高等農學校、また非常時の農村を指導する爲に最近農民道場が各地に建てられるようになつて來たことは、田舎のために喜ぶべきことである。

しからば、都會の生活をよりよくするために、都會で働く人達の教養を施す學校は

どこにわが國に建てられてあるか。都會にある多くの役所多くの會社、銀行、工場などには、多くの大學や専門學校などで、種々の専門の學業を修めた人達が働いてゐるしかし都會の生活をよりよくするために、都會を一つの生きたものとして考へるために、種々のことを教へる學校は、日本のどこに設けられてあるか。

私達は、日本の帝都としての東京市にさへも、このような學校が一つもないことを皆さんとともに甚だ残念に思つてゐる。しかし皆さんが大きくなる頃には、日本にも一つや二つの都市民學校が、國民高等學校や農道場のやうに、きつと出來ると私は信じてゐる。ちようど、ヨーロッパやアメリカの都市で行はれてをつた都市計劃が、十餘年このかた、わが國にも行はれるようになつたのと同じように。

私は、都會の記述を終るに當つて、わが日本の都會の生活をよりよくするために、また都會のために働く人達の教養のために、近き將來に日本にも一つの都市民學校の建設を希ひつゝ、フランスの首都パリにおける高等都市研究學校についての一節を都會についての記事を最後のページとしたい。

パリ市には、都市の發達に伴うてそのひろがりがあるがどんなふうに変つたか、またその産業や交通機關がどんなふうに發達したかを研究する研究所がある。そしてこの研究所に附屬して、パリ市立の高等都市研究學校がある。これは、今から二十年前にパリ市に續いてゐるセイヌ縣の參事會で、歐洲大戰後に、フランスの國民生活の順序をもとのようにし、また社會の組み立てを造りかへようとする必要から、また都市計劃についての法律を實際に行ふ場合に、都會を今までのまゝにして置いては、種々の困難があるので、都會についての種々の問題を學術的に研究しなければならなくな

つて設立したものである。その目的は、

(一)都市學といふ都市の研究についての學問を組み立てること。

(二)これによつて、都市の住民の日常の生活に必要な種々な事物を研究すること

(三)都市學なる學問の値うちを民衆に知らしめること。

なのである。

朝鮮の田舎と都會

朝鮮の田舎

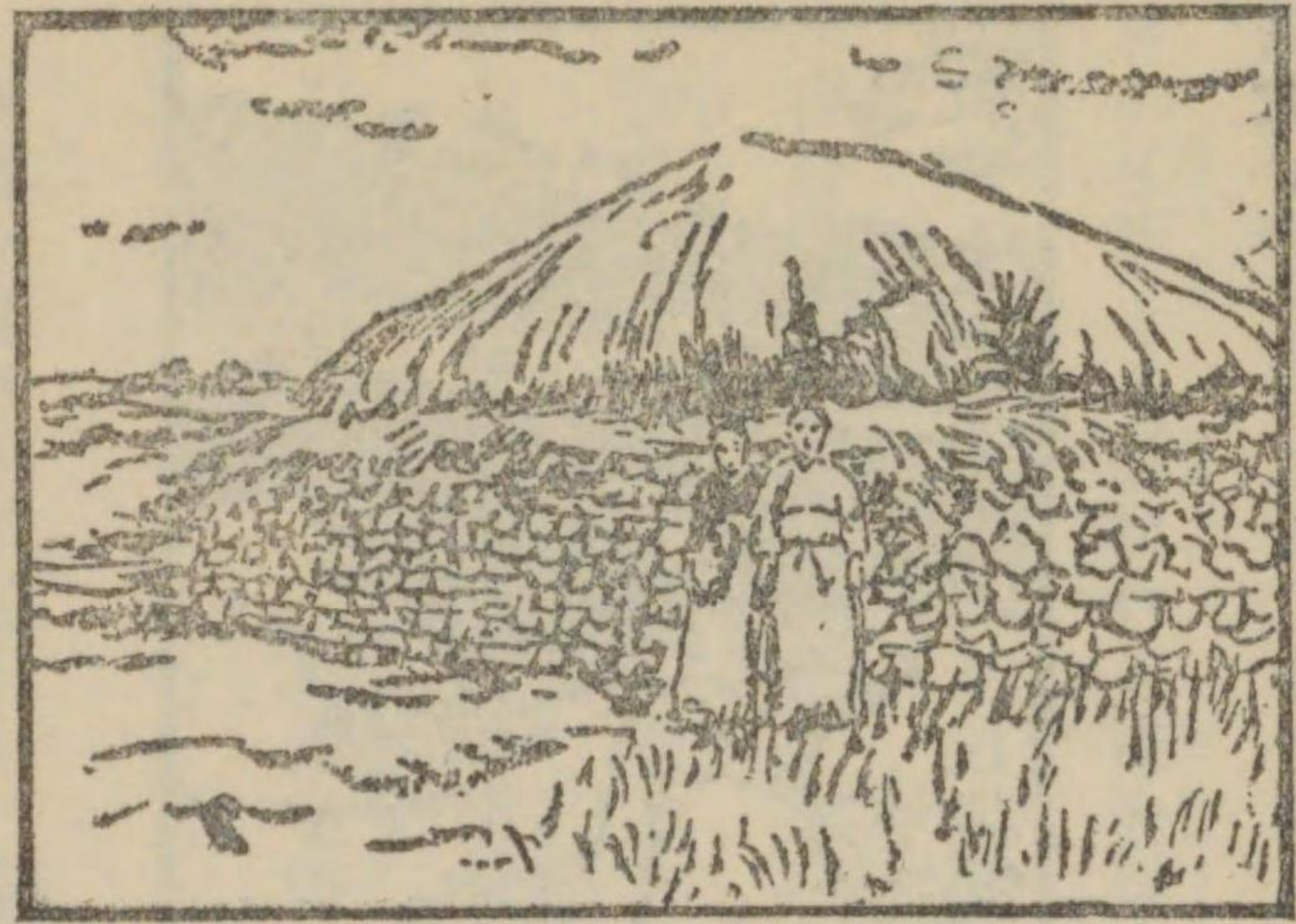
田舎家

内地からはじめて朝鮮にいつた人達に、一番先に目につくものは朝鮮の田舎家である。汽車の窓からでも、自動車の上からでも、赤く禿げた山の麓に、また山の中腹とも思はれるところに、だらりとさがつた藁で葺かれた小さな民家が眺められる。

この灰色な藁葺きの民家の屋根は、さなきだに寂しい朝鮮の田舎を、いつそう寂しくさせるように思はれる。

朝鮮の人達がよく、水を汲むのに使ふばかりが、夏の終りに、この民家の屋根の上に盆大になつて實を結んでゐるのが、なんともいへない一種の趣きを添へる。朝鮮の

人達の好んで食べる唐辛は、秋の中頃になると、この民家の屋根の上に一杯に干されるので、旅する



朝鮮の小農の家



朝鮮民家の厨

人達は、この赤いのが目について、すぐに民家の屋根だと気がつく。私達は、内地の田舎家と大分様子の違つてゐる

るこの朝鮮の田舎家を見るために、二三の人達と、ともに田舎道をおいてゆくのである

つた。

朝鮮の田舎道を歩いて、著しく氣のつくことは、内地の田舎道を歩いてゐる時より



朝鮮の水くみ女

も、非常に乾いてゐるといふ感じである。實際朝鮮では、初夏の季節に豪雨のある他には、年中秋から冬、冬から春にかけて雨のふることはほとんどない。だから田舎道を歩いて、じめじめした感じの起ることは少し

もない。

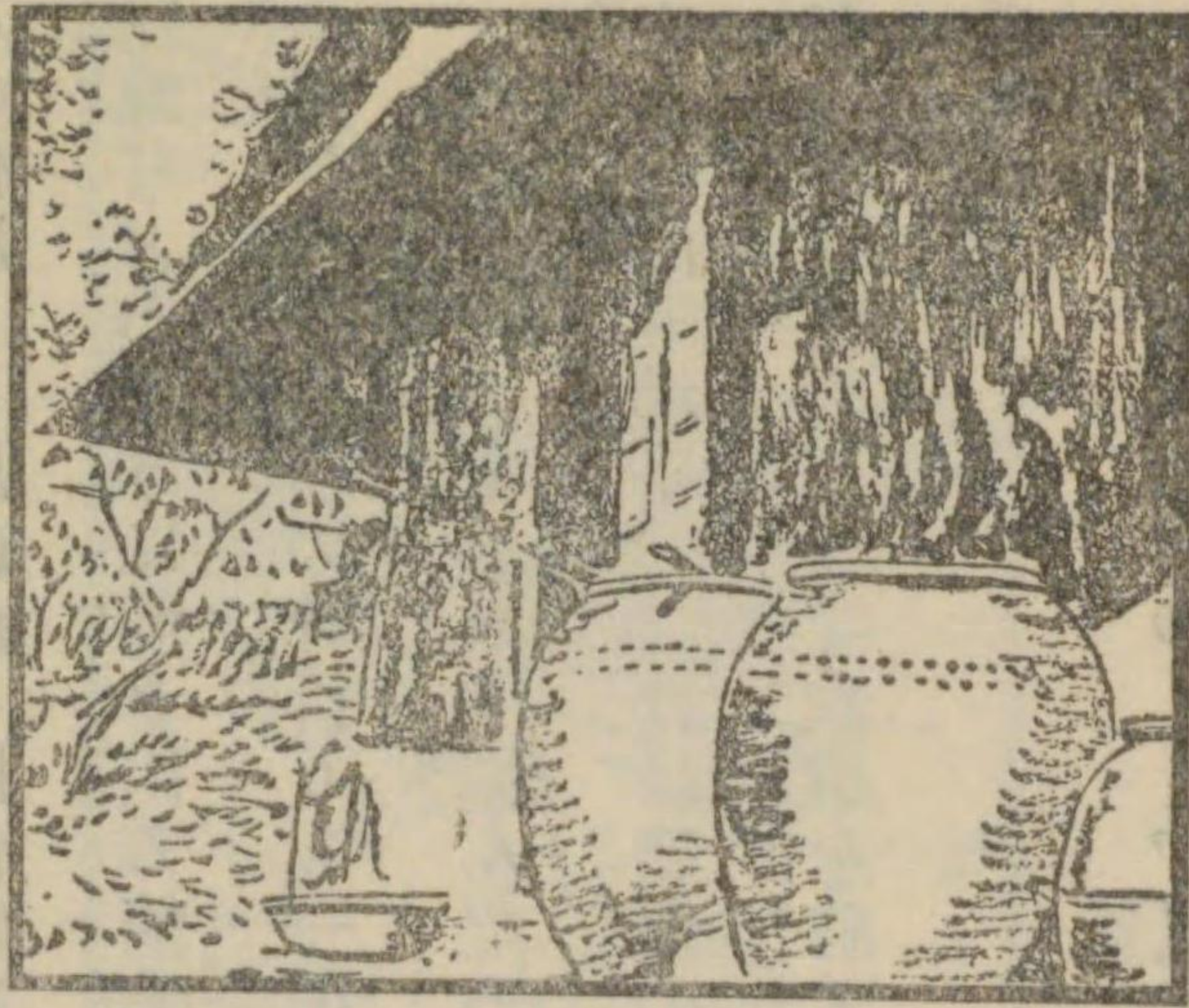
乾いてゐる細い小路をあるいてゆくと、あちらこちらに、土塀で圍まれてゐる藁葺きの田舎家がある。向うの方から白衣をきた年頃の女が、頭の上に黒い土器を載せてその住居とも思はれる田舎家にはひつてゆく。雨のふることの稀な朝鮮の田舎では、内地などのように湧き出る清水もわづかなので、従つて水汲む井戸も少い。それだけ水汲む女の人達の骨折れも一通りではない。

灰色な田舎家を取り圍んでゐる土塀の中から、おぼつかないに見える温突の煙りの立ちのぼる様子、これは朝鮮の田舎家ならではの見られぬ趣きであり、その塀の前に眞白な浮き出るような衣服を着てゐる子供達を見るのも、また朝鮮ならではの見られぬ姿である。

土塀をはひつてゆくと、私達の異様に感ずるのは、その入り口が見當らぬことである。そして入り口らしいところは、出入りによつて開閉する引き窓のようになつてゐる。

る。その手前には、部屋々を下の方から温める仕掛けになつてゐる温突の焚き口が見

られる。焚き口の上には、朝鮮でなければ、見られない釜がかけられてある。この焚き口の近くに簡単な勝手がある。



朝鮮民家の厨の側面

とがけつして少くはない。部屋を出て目につくものは、勝手近くの小高いところに長い甕に入れた醤油や味噌を置いてあることである。宅地内には棗の木が植ゑられ、ま

部屋にはひると、床は油紙を張りつけたすべすべしたもので、畳もなければ塵もない。しかし下の方から温突の仕掛けで温まつてくる心地は實にいゝ。たゞ夏は暑苦しいので、夜など外で寝るこ

た近年ポプラを植ゑてあるのを見るが、草花などを植ゑてある家は數へるほどしかない。内地の農家を見慣れたものには、いかにも寂しい感じがする。

普通の田舎家は二間か三間で、他に入り口近くの土塀に物置きがある。少し物持ちらしい家になると、入り口に應接間ともいふべき部屋がある。

朝鮮が日本に併合されてから、日本人で朝鮮の田舎にはひる人も多くなり、また朝鮮人でも、農事の改良から朝鮮風の田舎家では不便だといふので、日本風に改良するものも見られるようになった。しかし日本風といつても、窓に當る引き窓を大きくしたり、部屋の空氣の流通をよくするために、上の隅のところに小さな穴を穿つくらるである。

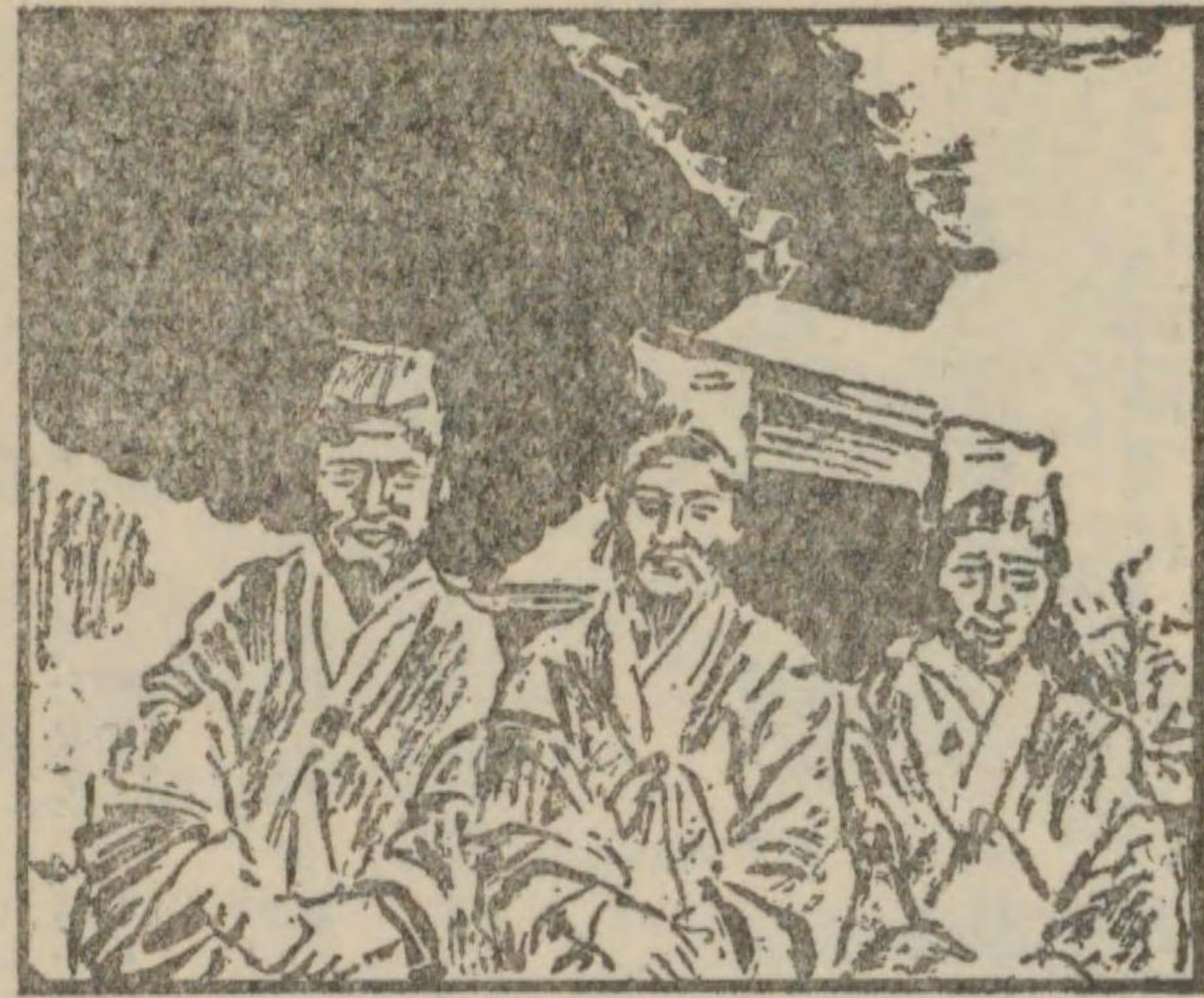
朝鮮の舊家

内地でも田舎の舊家は、家構へでも宅地構へでも、それが農家かと思はれるような大きなのを見るのであるが、朝鮮でも、李朝といつて、まだ獨立してゐた當時の文官や武官であつた家柄のよい舊家では、田舎にあつても、日本の大名のような家構へをしてゐる家は少くはない。

私は、今から八九年前に、四年間ばかり、毎年二三箇月づつ、朝鮮の田舎の生活を調べたことがあつた。その時には、普通の田舎家にはひつてその生活を調べもしたが、また舊家をも訪れて、親しくその家人に接し、その家構へを見て、朝鮮の田舎にも床しいふる文化のあることを知つたのであつた。

今私の見た朝鮮での舊家のある部落の印象をこゝに述べて見ると、

豊南面河回里。洛東江の中流の左岸に沿うてゐて、大邱から自動車で一日程である。



(里回河)弟兄氏佑承柳たけつを服喪

こゝはかの豊臣秀吉が朝鮮征伐をした頃に、總理大臣をしてゐた柳西崖といふ學者の家が本系となつてゐて、その兄の柳兼庵といふ人の家とともに、立派な家構へが今でも残つてゐる。このように由緒のある部落だから、儒教が長く行はれた關係からも、漢文で手紙を書く人達が多く、少年でも文字を上手にかくものが他の村よりも多い。洛東江を隔てた小高い松山は、躑躅の咲く頃には、めつたに外出することのない朝鮮の婦人達も、一日楽しくこゝで遊ぶのが例になつて

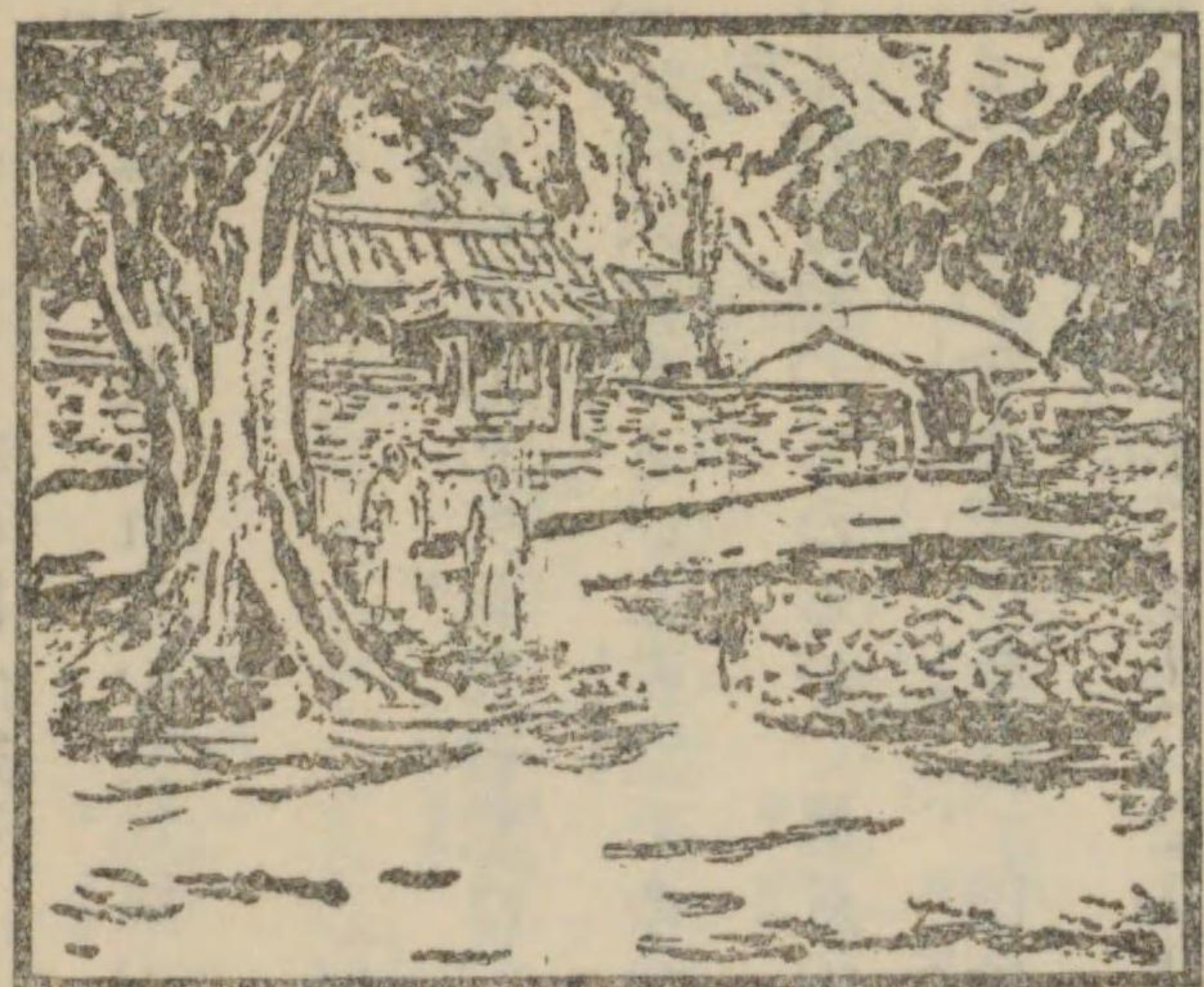
るるといはれてゐるが、私もこの山の上から、洛東江を隔て、河回洞を見下してしばし見とれたのであつた。

可金面樓岩里。漢江の中流に沿うてゐる形勝の地で、二百年ばかり前に總理大臣をした人が、この風光を愛して隠居した所、惜しいかな、三十年ばかり前の兵亂の時に、焼き拂はれて、風景ばかり昔の面影を留め、鄭氏の一族で残つてゐる家も少かつた。

金溝面上新里。

金州といふ道廳のあるところから四里ばかり、張といふ宗家を本としてゐる部落で、その家構へも祖先を祀つてある祠堂も、なかく立派である。このような部落では、新しい普通學校を喜ばなかつたが、今日ではその子弟を通學させるようになった。

書 堂



書 堂(六槐亭)

朝鮮の田舎の村で、田舎家と違つた建て物として私達の目に止まるものは、日本の塾ともいふべき書堂であつた建て物である。今日の朝鮮では、二つの村の一つづつ新しい學校が建てられてゐるが、併合前などは、田舎の子供達は皆この書堂で教育されたのであつた。私も田舎をまはつてゐる間に、二三度この書堂に、古風な朝鮮の先生が、十數人の子供達を集めて、昔風の讀本様のものを

教へてゐるところを見たのであつた。

書堂の位置は、田舎の村々でも、たいがい風景のよいところに建てられてあるし、その建て方も村の田舎家などと違つたもので、その傍に大きな槐などが植ゑられて日本などに見られない支那風の趣きがある。

私達のはじめて見た書堂は、京城の東南方約十里にある利川郡柏沙面道立里といふ部落の六槐亭といふ書堂であつた。六槐の名がつくもとなつた大きな槐は今でも五本だけ残つてゐるが、眞夏の午頃、大きな槐を傳はつて吹いてくる南風を受けながら、この書堂で、生涯、田舎の子供達を教へたといふ嚴氏の一族で、今でもこの部落での中心人物であり、このような書堂には、その由來が長い漢文で誌されてある。

精穀場と鍛冶屋

朝鮮の田舎で、普通の田舎家や舊家や書堂の他に、常に私達の目をひくものは、小さな精穀場と鍛冶屋である。

精穀場は、村々の隅々にある小さな廣場に小屋掛けのように仕掛けられ、その眞中に大きな石臼が据ゑつけられてある。秋の收穫が終ると、この精穀場が忙しくなる。しかし、小さな驢馬に挽かせてゐる精穀場の様子には、悠長さがうかゞはれる。精穀場とともに田舎になくならぬ鍛冶屋も、小さな部落では、それが年中仕事がある譯ではないから、一人の鍛冶屋は、村から村へとまはつてその用を辨する事になる。私達の始めて見た朝鮮の山村では、山をこえて、あなたから必要の時季だけ、この山村に来る事を聞いたが、その村の端の所には、その爲の小さな小屋掛けを見たのであつた。

墓地

朝鮮の田舎を旅した私達は、田舎の人達が葬られてゐる墓地の位置について、しばしば驚かされる。

二箇月も三箇月も、天氣のよく續く朝鮮の秋の空は、澄みきつて相當に遠いところまでも見通しがきく。汽車の窓から、この晴れ渡つた田舎の野山の風景を眺めながらする秋の旅は、朝鮮での一番心地のよいものである。

南向きの傾斜の緩やかな丘などには、多くの土饅頭が重なり合つてゐるほどたくさんな墓地が、汽車の窓からでも、目につく。これらの墓地を見て、祖先の墓地の位置を、占ひ者のよいといふ土地に葬ると、家運が開けると迷信してゐる民俗のあることを、いかにもと思ふのであるが、私は、ある大きな川の中に出來てゐる洲が、今は畑

になつてゐるところに、相當な身分のある人の墓であると思はれる墓地が、作られてあるのを見て、墓地を重んずる朝鮮の風習が、いかにも根強いものであることを益々感じたのであつた。

朝鮮の併合を實行した寺内總督の時代に、この墓地の整理をするために共同墓地の制を設けたのであつた。しかしこの制度がなか／＼に行はれなかつたのは、この墓地の位置を重んずる風習の根強いためであつた。それを強行することが、かへつて朝鮮の人達の感情を害ふので、齋藤總督時代からは、共同墓地の制度を強行しないようになつたと聞いてゐる。土饅頭が堆く盛られてある手前に、石でつくつた動物の像や棒などの立てられてゐる身分ある人達の墓地を村の端などに見る時、私達はそれが田舎の一つの飾りでありまた誇りでもあるように感ずる。ことにその人がその土地の爲に盡した功績を聞くにつけて、一層その床しさを増すのであつた。全羅北道の南原と



落村の近附州慶

いふ町^{まち}で、そこで盡^{つく}した金^{きん}といふ日本^{にっぽん}の郡長^{ぐんちやう}ともいふべき人^{ひと}の墓^ぼ地^ちを拜^{はい}した時^{とき}、自分^{じぶん}はことにこの感^{かん}を深^{ふか}くしたのであつた。



城 京

洗せん

濯たく

年中ねんぢゆう白しろい衣服いふくを着きてゐる朝鮮てうせん、ことに年中ねんぢゆう雨あめが少すくなく、水みづの乏とげしい朝鮮てうせんでは、その汚よごれ易やすい衣服いふくを白しろく洗濯せんたくすることが、主婦しゆふの大おほきな爲しごと事ことである。僅わずばかりの水みづ溜たまりのところところに、數人すうにんの主婦しゆふがたぐさんの汚よごれた衣服いふくを持もち運はこんでそれを洗濯せんたくするのを見みるのである。小川せがはにでもなると、岸きしに沿そうて、また川かはを横切よこぎつて、小ちひさな飛とび石いしが置おかれおてある。それは、川かはを渡わたる足掛あしかけにもなるのであるけれども、また洗濯せんたくをするよい足あし場ばにもなるのである。

學校がくかうに通かよふ子供こども達の服装ふくさうは、どうかすると、眞黒まつくろな無地むぢになつてゐるところもあるけれども、大方おほかたの人達ひとたちは、やはり白しろい衣服いふくを纏まとつてゐる。

私達は、東京や大阪のたくさんの人ごみの中で、すぐ朝鮮の人達を見出すことの出来るのは、この白い衣服が一番その目標となるからである。

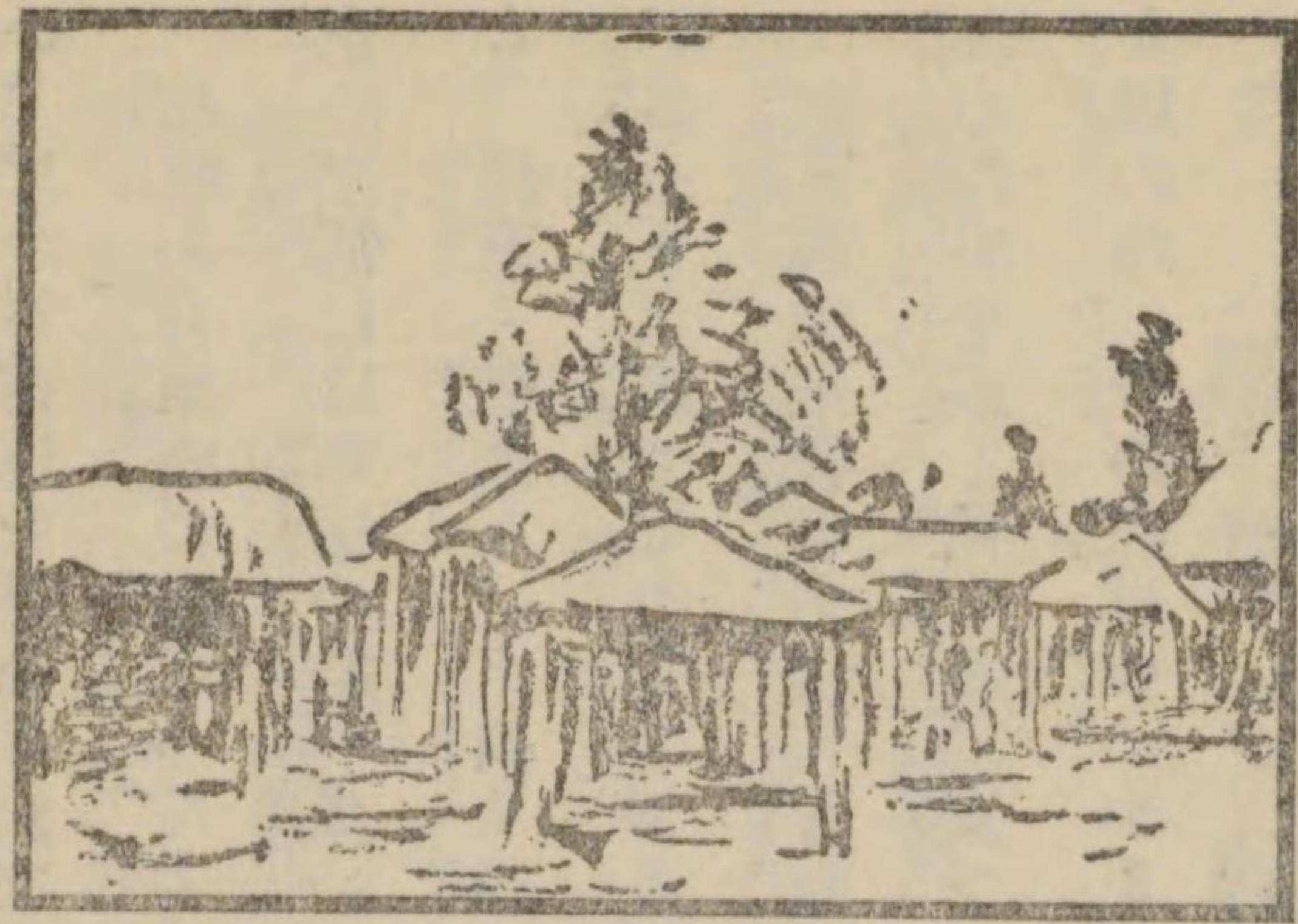
内地から朝鮮に、朝鮮から満洲に旅する時にも、この白衣が、朝鮮の境にはひつた目標になる。

それにしても、汽車から窓の外の風景を見ながら、朝鮮を旅する時に、私達は、あの寂しい風景の中に、白衣の人達の往來する姿を見ることが、どんなに慰められるであらうか。

市場

古市とか三日市とか四日市とか、また七日市とか十日市といふ地名は、今日でも、日本の田舎のところ々に残つてをり、それが村であつたり、また町であつたりするなかには昔のように市が開かれてゐる所もある。

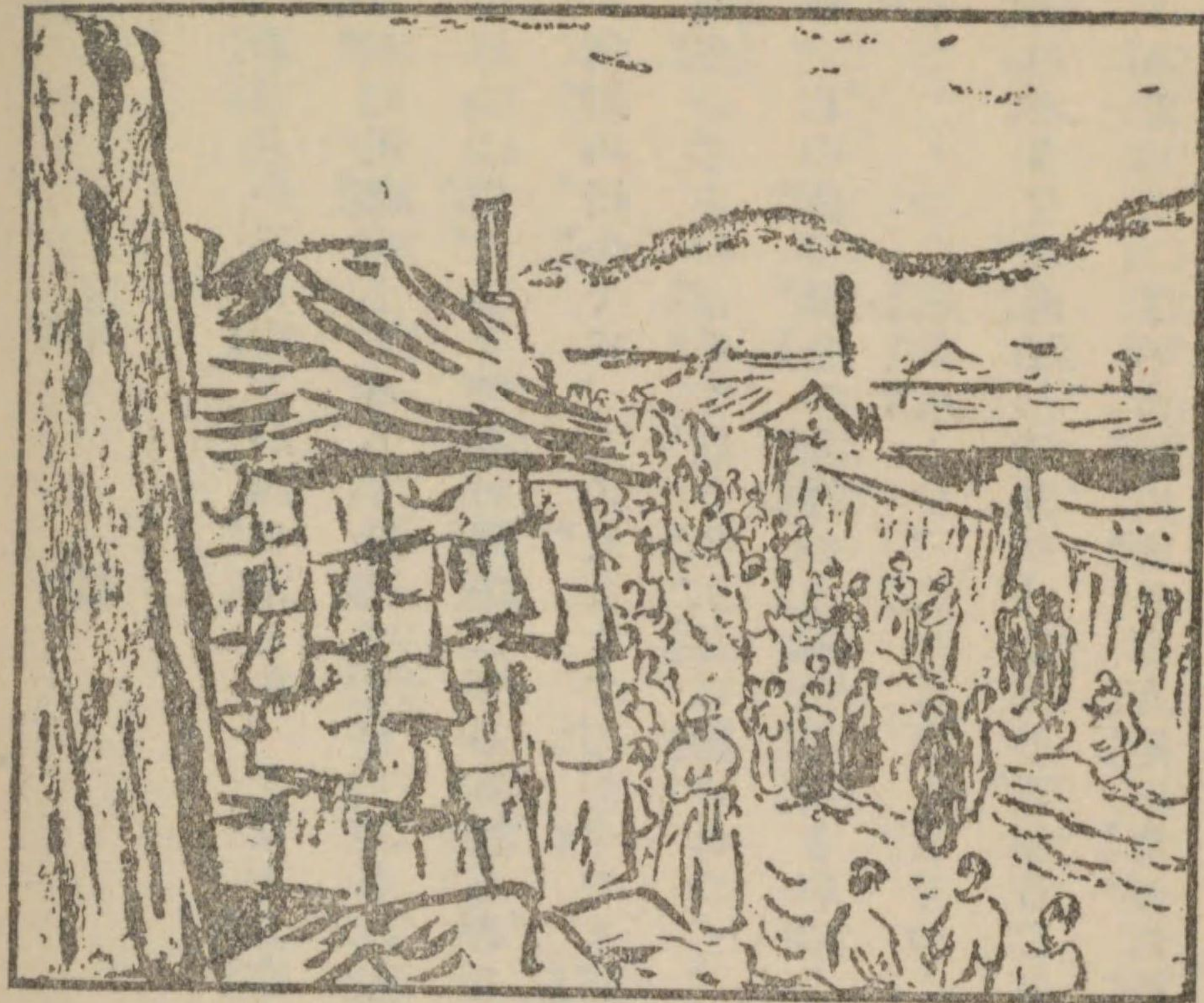
朝鮮の田舎では、この日ぎりの市が今でも盛んに開かれて、その場所の数は、非常に多い。この市場で取り扱ふ品は種々あつて、農産物、水産物、綿織り物、畜類を始め、その他、田舎の人達の入用な雑貨とか、また田舎から出る小さな物産、たとへば木でつくつた朝鮮履とか、山から出る石でつくつた砥石だとか、田舎から出るたくさん小さな物産などである。これを見てゐると、いかにも、大昔に、物と物とを交換するために、この市場に田舎の人達が集つた様子が見られるような氣がする。



(里隅碓下) 場 市

場には、田舎からやつて来る人達に、晝の食事をさせるための飲食店も多く開かれる

を焼き拂つてその灰を肥料にしてつくるような極めて簡単な生活をしてゐる人達が多いからで、市場の品物も多くは賣れず従つて市場も賑ないことになる。しかし、まはりにたくさん村々を控へてゐる町(邑内)の市場は、このような山間の村の市場にくらべると、とても賑ふ。かゝる市場は、その必需品を買ふために、或は三里、或は四里もあるまはりの村々から、手作りの農産物や林産物を背負ひながらやつて来るものが多い。従つて市



(内邑)屋小の場市の町

小さな市場になると、村々の主な街道の両側に沿うて、道幅に種々な品物が並べられる。このような小さな市場は、私は、蓋馬臺地といつて、朝鮮での北部に大きな臺地をなしてゐる山地の街道に沿うてゐる新南面下碓隅里の市場で見た。この市場は毎月三八の六回に開かれるが僅の干物や肉類や木綿などを路端に列べるに過ぎない。かく市

から、買ひ物がなくとも、一日や半日を樂しむために、市場に出掛けて來る人達も多い、だから市場を見物すれば、小半日で朝鮮の田舎の風俗が見られる。

北西から東南に連なつてゐる朝鮮半島の中で、北西の半部には市場の数が少く、南東の半部には市場の数が多し。南東部は、朝鮮のうちでは氣候もよく、平野も廣いから、農業も發達し、人口も多く、従つて田舎としての村々の数も多いから、市場の数が多くまた賑つてゐるのである。

南東部の田舎の市場に用達に出る人達は、ほとんど男ばかりであるが、北西部の田舎の市場で多く見るのは女である。これは南東部では儒教が行はれてゐる關係から、女達の外出の風が少いからであつて、遅く開けた西北部では、儒教も南東部ほど行き渡つてはをらず、それに農業でも氣候の關係などから、女でも相當に稼がねばならぬから、自然に女も外出することをなんとも思はぬようになつてゐるからである。

朝鮮の村々

朝鮮に住つてゐる人達は、朝鮮人が多數だから、田舎の村々も九分九厘まで、朝鮮の人達から形造られてゐる。もちろん、村に住つてゐる人達のうちで、新しい普通學校の先生とか巡査とかは、内地人であるが、その他は朝鮮の人達である。

朝鮮では、内地での部落に當る十數戸か數十戸集つてゐるところを、洞とか里とかいひ、内地の村に當る行政上の單位である所を面といつてゐる。だから村長にあたる人は面長といふ。同じ面のうちでも、山地寄りの洞もあれば、畑場所ばかりの里もある。また田場所ばかりのところもある。見渡す限り田になつてゐるところには、坪

などいふ名がついてゐるところもある。すなはち内地の山村もあれば野村もあり、また漁村もあるわけである。

それらの村々は、それ／＼附近の土地から出る天産物を、その生活の土臺としてゐることは、内地と少しもかはりはない。たゞ内地のような大きな都會が少いから、その郊外となつてゐる村の数が少ない。

朝鮮の田舎の村で、一番朝鮮らしい感じのするところは、前にも述べた舊家を中心として纏つてゐる部落である。このような部落では、その部落の主な地主達はたいがい同じ苗字で小作人達は他の苗字で、それがほとんど主従の關係になつてゐる。

この朝鮮の田舎は、言葉も通ぜず、また歴史も知らず、風俗をもつまびらかにしない私達には、寂しく感ずるのは當然のことかも知れない。しかし、満洲の田舎にはひつた私の経験からすれば、朝鮮の田舎は、満洲の田舎よりも遙かに寂しいような感じ

が強い。これはどういふ譯であらうか。皆さんが大きくなつて、朝鮮を旅する頃には、この朝鮮の田舎は、どんな風に變るでせうか。私は、この寂しい朝鮮の田舎が、それまでに賑かな田舎になるように望んでやまない。この田舎の暮し向きをよくする爲に、部落々々を單位としての改善の方法が行はれてゐるさうであるが、さういふ事も田舎を生々したところにするのに大きな働をなすであらう。

内地から朝鮮に旅する人達は、下の關からすぐ釜山に上陸し、それから汽車で京城に直行する。その汽車の通つてゐるところは、多くは田か畑か山かの間であつて汽車のとまる驛は大きな町ではあり、その驛の附近には日本風の住家が多いし、汽車の窓から眺められるところは、たいがいは普通の田舎家ばかりであるから、大きな都會ばかりを見て来て田舎にはひらなかつた人達は、朝鮮の田舎の村々はすべて見すばらしいところのように思ふ人達が多い。これは朝鮮の田舎に對しての非常な

見當違ひである。

だから、私は、事情の許す人達には、釜山からすぐ京城に直行せずに、釜山から加藤清正が籠城したので名高い蔚山に赴き、それから、昔から日本と關係の深かつた新羅の古都慶州を見、慶州から大邱に出て、京城に行くことをすすめるのである。この順路を取り得ない人達は、朝鮮の田舎にも、内地の田舎に見られるような舊家を中心としてゐる部落のあることを忘れてはならない。

朝鮮の都會

邑内

邑内は、内地の町ともいふべきところで、李朝時代には郡治を置かれたところである。この邑内は、一たん事あつた時には、防備の便を慮つたことゝ、墓地の所にも述べたように、朝鮮の人達が山地を後にし平地を前にした地勢が、好運の兆があると信ずる習慣から、たいがいは山麓に位してゐる。ことに、日本よりも山地が多く平野の少い朝鮮の地勢は、このような邑内の割據によく適してゐる。

朝鮮が日本に併合されてから、郡の廢合が行はれたゝめに、昔のように盛んでない

ところも少くはない。また現に郡廳を置かれてあるところでも、併合後は、各道の道廳に屬してゐるから、もと役人であつた人達でも、今は閑になつてゐるのが多いこと



邑内市場の記念碑

は、内地の城下町の侍達と同じである。今日の郡廳の郡守は、土地での名望ある朝鮮人で、内地人はその下に庶務課長となつて輔けてをり、事務は朝鮮人と内地人によつて執られてゐる。

郡廳は、たいがい昔の建て物を利用してあるから、門構へから、屋根瓦の工合などまで、殊更に朝鮮固有の感じがある。門前には昔の郡守であつた人達の善政碑といふのがよく建てられてゐるのを見るが、これらはほんとうに善政を讃めたものよりも、李朝時代に田舎の人達から税などを多く取

つた郡守を、はやく他に轉任させるための方便だつたといはれてゐる。

邑内の市場になると、田舎の市場と違つて、一定の空き地が設けられてゐる。市日になると、その空き地は殆どいつぱいになるほど、臨時の店が開かれる。穀物や肉、牛肉や豚肉を賣るもの、雜貨を賣るもの、飲食店など、朝の十時頃から午後三時頃まで、市場は田舎の人達の賣買や飲食などで雜沓する。

高麗朝の都であつた開城は、朝鮮人參の産地として、普く人に知られてゐるが、李朝になつてからは、政治上、開城の人を役人にしなかつたので、開城の人達は、専ら商業で身を立てようとした。だから開城の商人は、先づ附近の地方に行商に出掛け、それから物産の多い南東部に手を伸ばして、努力したといはれる。かくて今日でも開城は、朝鮮の邑内の中でも一番富裕であり、その町並が、いかにも落ちついた感じがして、朝鮮の町の中で、一番底力があるように思はれる。

新しい町・裡里

朝鮮のふるい邑内にくらべて、最も新しい感じのする町は、裡里である。

この町は、郡山港に近い萬頃江といふ大きな川に近いところに、新に生ひ立つたところである。朝鮮がまだ獨立してゐた今から四五十年前、日本人で朝鮮の未墾地の開拓を志した人達は、危険を冒して、この裡里に来て、川沿ひの開墾を企てた。私が十年前に、裡里の町を調べにいつた時にも、町の重立つた人達は、町の出來はじめた頃の苦心を熱心に話してきかせたのであつた。

このようにして出來上つた裡里の町の人達は、協同心が強く、どうにかしてこの町を健全に發達させてゆきたいといふ希望に燃えてゐる。私達は、日本人が朝鮮に開いた新しい町として、この裡里が立派に生ひ立つてゆく事を信じ、又祈るものである。

古い大きな都會

平壤と京城

朝鮮の古い都會のうちで、大きな所といへば、京城と平壤とをあげなければならぬ。

京城は、大きな漢江の河口近くにあるし、平壤は漢江ほどの大いさではないが、大同江といふ河口の近くにある。かく地理的位置をくらべると、二つの都會は似てゐるが、そのふるさからいへば、平壤は遙かに京城にまさつてゐる。

平壤は、支那に近いから、昔から支那との交通が開けてゐた。平壤の近くには、昔支那で樂浪郡を置いたといふ城址が残つてゐる。私達が今日平壤にいつて見ても、その位置が支那と、また附近の地域との水陸交通の要所に當つてゐて、今日のような大

きな都會が出来るところのように思はれるし、戦争の時にも、こゝを取ると否とによつて、勝敗に非常な關係があつたらしい。豊臣秀吉の征韓の役にもこゝで大きな戦ひがあつたし、日清戦争のときにも、こゝの城門である玄武門をわが軍で破つたことがその戦勝の緒となつた。しかし、平壤はかく形勝の地形を占めてをり、また交通の要所となつてゐるばかりでなく、その附近からは、無煙炭が出るので現に海軍の燃料廠が置かれてあるし、將來も工業地として有望であるといはれてゐる。大同江に近い鎮南浦は平壤の外港の働きをしてゐる。

私も二三回この都會へいつた度に、昔の城壁に上つて、附近の風景を眺めるのを樂しみとした。私達素人にも、東に大同江を控へ、北に丘陵を負うてゐる要害がわかるし、四方を眼下に見渡す廣々とした風景も實にいゝ。ことに浮碧樓上から大同江を見下したところは實にいゝ。平壤八景のうちに「浮碧月を玩ぶ」とあるのは、この樓

から東に大同江を隔て、十五夜の月の上つてくるのを賞する勝景をいつたものであらう。

京城は、平壤にくらべると、漢江に近いとはいひながら、北の方が少しばかり開けてゐる盆地に位してゐるだけ、その位置が餘程違つてゐる。

この都會は、朝鮮が日本に併合される前まで朝鮮の首府であつたところだけに、王宮とか當時の大官の邸宅とか今でも残つてゐる。この王宮とか大官の邸宅とかは、西部にあるから、西部の方があるきまはると今でも朝鮮固有の宮殿や貴族達の邸宅の様子を見ることが出来る。一々はひつて見ることが出来なくとも、高く聳えてゐる宮殿の瓦の葺き方、貴族の大きな邸宅の門など、すべて内地で見られぬ造り方である。私達は、こゝらを通つてから、博物館にはひつて見た。そこに朝鮮固有の焼き物とか

彫刻とかいろ／＼のものをみる事が出来るし、また孔子を祀つてある大成殿にはひつてみると、昔はどれほど儒教が盛んであつたかと思ひやられる。今日でも一年に一度行はれる御祭釋典は、すいぶん嚴かな儀式で行はれる。この朝鮮固有の都會での侍町ともいふべきところに續いてゐる商業地の鍾路にいつて見ると、呉服店や雜貨店から本屋まで、朝鮮固有の様子がよくわかる。私達は、京城にいつたならば、内地人が纏つて住つてゐる本町附近をよく見てまはるよりも、この鍾路附近をあるきまはるほうが、朝鮮の都會のもようがよくわかるのである。

内地人の商業地の中心ともいふべき本町通りが、非常に道幅の狭いところから推して、われ／＼の同胞がはじめてこの都會に來た時には、その勢力も定めし微々たるものであつたらうと思はれる。しかし十年前に朝鮮の調査に行つた頃に比べると、本町通りの町並が著しく内地の都市のそれらしくなつたのが目につく。

朝鮮全半島を統治する總督府は、今日でこそ、西部の北漢山の下に立派に建築されたけれども、兩三年前までは東部の倭城臺にあつた。これはもとの日本公使館のあつたところである。

もと韓國の首府としての京城、今は日本に併合された總督府のある京城、私達は、京城を見るのに、このような考へで見なければならぬ。もとをいへば同じく蒙古人種であるとはいへ、長く住つて國を建てゝゝた土地が違ふし、歴史が違ふから、日本民族と朝鮮民族とが、よく融け合ふようにしてゆくには、常に廣い心で、朝鮮の人達を抱くような考へでをらなければならぬ。

私達は、京城にしても、平壤にしても、またその他の古い朝鮮の都會を見てまはつた時でも、このような考へを起さない時はなかつた。日本は朝鮮を併合するようには

なつたが、それだけむづかしい立ち場になつたことを深く考へなければならぬ。

新しい大きな都會

釜山・仁川・元山・新義州・大邱

朝鮮の新しい大きな都會といへば、誰でも釜山を思ひ起すであらう。

釜山は、今日内地から朝鮮に旅する人の、真直に着く港で、下の關から上船してから十時間ばかりで、この港を見ることが出来る。

かく内地に近く、ことに對馬に近いから、對馬の人達は、はやくからこの釜山附近にはひつてゐたらしい。釜山の近くには草梁といつて、今では釜山の一部といつてもよい所があるが、こゝにはふるくから市場が開かれ、しかもその市場は昔から對馬を通じての内地の品物の取り引きなども行はれたところらしい。

このように、釜山附近は、はやく日本人の往復した所であつて、従つて釜山も明治

九年頃から、日本人に開かれた港で、港の住民の大部分は内地人である。

釜山に上陸しない前、船の上からこの港の様子を見ると、その埠頭には、出迎への内地人達もあまた見えるが、白衣を着てゐる朝鮮の労働者達も相當に見受けられる。

ことに荷物背負ひを爲事にしてゐるいちらしい朝鮮人の少年達の姿が目につく。

埠頭に出ると、雑貨店にはいろいろな朝鮮の物産、ことに人參や飴を賣つてゐる。

埠頭の横が驛になつてゐて、そこから滿洲の奉天や新京行きの汽車の出入りすることなどが目新しく感ずる。

町の中には電車が通つてゐるが、その中には朝鮮の人達も大分乗つてゐる。町には内地人の店が多いが、朝鮮人の店もある。内地の都會ばかり見てゐた私達は、こゝに上陸して、はじめて違つた民族の様子に觸れるのである。

町をまはつて、後の丘の方を見まはすと、多くの小さな朝鮮の民家が、中腹から丘

の上にまで建てられてあるのを見る。これらの民家の大部分は、もとは、下の方にあつたのだが、釜山の港が大きくなるにつれて、平地に住つてゐることが出來ずに、かく丘の上に退いたものだといひ、私達は氣の毒の感にうたれるのである。

汽車のなかつた頃は、京城の入り口となつてゐた仁川港も、また日本人がはやく來たところで、こゝの住民の大部分もやはり内地人である。しかし、この港で、私達の忘れてならないことは、こゝが支那からの航海上の關係で、支那商人の朝鮮における根據地となつてゐることである。朝鮮における支那商人は數こそ少いが、極めて簡易な生活をしながら、組織的に商業を營んでゐる。その營業振りは、私達の驚くほどで朝鮮の新聞などでも、それをほめちぎつて書いたことがあつた。商賣ばかりではない支那人は、野菜の栽培が非常に上手で、仁川の町には、支那人の立派な共同市場が設けられてゐる。

仁川ばかりではない、京城にしても、平壤にしても、大きな都會のまはりには、みな支那人の野菜の栽培者がゐる。仁川の近くには、野菜栽培で知られてゐる王といふ人の家がある。

釜山から仁川まで舟でゆく途中、木浦にしても、また郡山にしても、ともに内地人がもとになつて開けた港であり、その附近の広い水田からは、米の産出が多いので、従つて米の移出が盛んに行はれ、ことに郡山からの積み出しが大きい。

釜山からは米や大豆、仁川からは米や人蔘が多く移出される。

日本海岸での一番大きな都會である元山も、また内地人がもとになつて開けた港でこれから北の方圖們江口までの間の沿海地方にゆく中心地として、大事な都會である。この元山とくらぶべき都會は、滿洲の入り口である鴨綠江口の新義州であつて、これまた内地人によつて開かれた所で、新義州といふ名は、もともとあつた都會義州か

ら出たものである。

これらの新しい都會は、いづれも日本に向つて開港場として開かれたものだけに、いづれも港としての都會である。しかし、陸内にある都會でも、大邱のように、内地人町の方が大きくなつて、まつたくの内地の町のようなところもあるし、また大田のように、新に大きな町に出来上がったところもある。

内地人の多い都會

朝鮮における内地人の數は、朝鮮が併合されてから、役所や軍隊や、學校や農場や工場や商店などにゆく人が多くなつたので、それにつれて増して來た。それらのうちには、寂しい田舎の村々にはひつてゐる人達もあるけれども、一番まとまつて住つてゐる所は都會である。

しからば、どの都會に多く住んでゐるか、その主なる所を左に擧げてみると、

(一) 京城、平壤、釜山、仁川、大邱(一萬人以上)

(二) 元山、羅南、清津、新義州、鎮南浦、郡山、木浦、馬山(五千人以上)

なほ、一千人以上あるところを數へて見ると、二十五箇所に近い。

私は、内地人が五千人から一萬人以上もゐる都會は、羅南と清津を除いては、一通

りまはつたのであるが、その人數の大部分は、内地と同じような家屋を作つて住つてゐる。しかし中には、朝鮮固有の家屋に住つてゐる人達もある。

これらの都會をはじめ、その他の都會にも、われ々の同胞が、だん／＼ふえてゆくにつけても、われ／＼は、今後朝鮮の田舎と都會について、その見聞を廣めるようにつとめなければならぬ。

我々日本人は、かく朝鮮の田舎と都會を見つめる必要に迫つてゐるが、朝鮮の人達もまた日本に渡つて、日本の田舎と都會を見つめる機會が多くなつた。我々はそれらの感想にも耳を傾けて我が田舎と都會の姿を見なほさなければならぬ。

9/12

會都と舎田

昭和九年九月一日印刷
昭和九年九月十五日發行

定價金九十錢



著者

小田内通敏

發行者

東京市神田區駿河臺三丁目六番地
尾高豐作

印刷者

東京市荒橋區戸塚町一丁目二〇番地
永島喜代次郎

印刷所

明立印刷株式會社

發行所

東京市神田區駿河臺
三丁目六番地

刀江書院

電話神田三三一
一七八
振替東京七三一
八一九

柳田國男著
日本農民史
 定價 九〇六
 送料 〇六〇

四六判紙裝
 本文一頁九

本書には此方面に造詣深い氏が、日本農民生活の過去及現在を極めて手際よく論述されてゐる。まづ「農村」について述べ次に「農家」を論じ、つゞいて「農民と境遇の變化」に及んでゐる。而して著者の博學達識は、當面の問題より遡つて古へを懐古するといふ極めて興味ある倒叙史の體を示してゐる。農民史の問題は最近漸く世人の注意を惹いてゐるが、此方面の先覺者としての著者の意見は一言一句珠玉であり、凡そ斯學に關心する者のながく研究指針とすべきものである。

鈴木榮太郎著
農村社會調査法
 定價 三〇四
 送料 〇三〇

四六判紙裝
 本文七頁七

近時我が國に於て社會學、人文地理學、農業經濟學、民俗學其他文化史的諸研究の資料を地方に涉獵する傾向が著しくなつたと共に最近の教育思潮が郷土を教材として利用せんとする傾向が高調さるゝに到つた。本書はかゝる傾向を正しく指導せんが爲めに未だ我國に於て試みられたことのなき地域社會學的基礎調査の手順と要項の基礎案を示せるもので、最新完備の農村社會調査指針である。

井上吉次郎著
村と町
 定價 九〇〇
 送料 一〇〇

四六判紙裝
 本文一頁五

村と町と。人間社會生活の最初にして最後の形態だ。悉く此中にあり、而して茲に盡さる。此人間生活の磁場を著者は如何に描いたか。夫は純客觀の科學でない。純主觀の隨筆でない。美しく暢びる筆で科學的精緻な記載をやつた。強いて云へば生命の吹き込まれた社會學書だ。盡きぬ興味が脈動する。

鳥山喜一著
支那黃河の水
 改訂増補版
 定價 一八〇
 送料 一四〇

四六判紙裝
 本文二頁八

是迄日本歴史や西洋史の著書は、數多く出版されてゐるが東洋史支那史の手引となるべき完全な課外讀物は出版されてゐなかつた。日本に次いで最もよく知らねばならぬ支那に一般國民が疎いのは、畢竟理解され易い支那書が出版されてゐなかつたためである。本書はこの缺陷を補ひ幾多の要求を充たすために出現したものである。

シャルル・リシエ著
綜合文化史論
 定價 三〇〇
 送料 二二〇

菊装
 本文四頁八

歴史の教育は單なる史實の供給であつてはならぬ。歴史に對して自から正邪を判断し得る能力を養成する所がなくはならぬ。學者にして詩人、ノーベル賞金の受領者であつて世界的生理學者たる著者は、個人の尊敬と科學の信仰といふ二大觀點から歴史を説いた。一般的史實を叙述し乍ら自由に批判して行く處妙味の盡きないものがある。本書は千遍一律なる我が國西洋史の教育に何等かの刺戟を與ふると共に、年少者の心の中に正義と平和の思想を植へつけることであらう。

ブレステド著
古代文化史
 定價 二八〇
 送料 二二〇

四六判紙裝
 本文一頁九

古代史の研究は近時著しい進展を遂げた。かつては全く忘却せられて顧られなかつた古代の文明が、今や我等の足下から掘り出され、溢るゝばかりの内容を充たして燦爛たる光輝を放つに至つた我等の遠い祖先の努力と創造に基く古代文化の新發見、新研究は既に歐米の歴史教科書に採用せられて青少年の興味をそゝつてゐる、しかるに我國の歴史教育の現狀はこの點に於て頗る遺憾なきを得ない。かゝる折柄現今歴史教育の缺陷を補ひ事實に立脚する人類の全過去を興味深く説述せるものが本書である。

刀江書院發行

刀江書院發行

目書行刊院書江刀

東京日日新聞
經濟部編

經濟風土記

東北の卷

定價一・六〇 送料一四

東海關東の卷

定價一・六〇 送料一四

北海道信越の卷

定價一・六〇 送料一四

日高利一著 世界經濟風土記

定價一・六〇 送料一四

大阪毎日新聞
經濟部編

經濟風土記

四國の卷

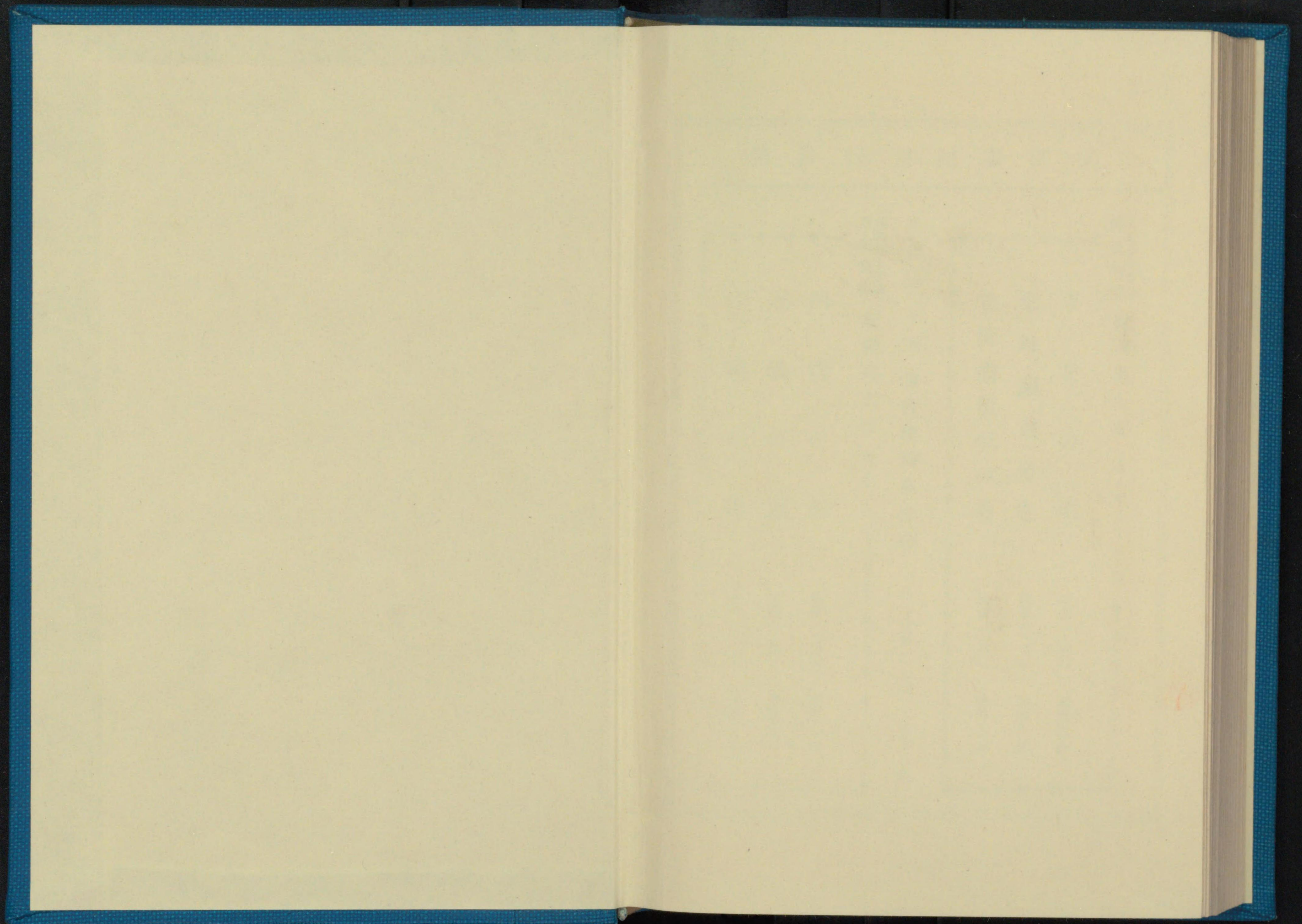
定價一・六〇 送料一四

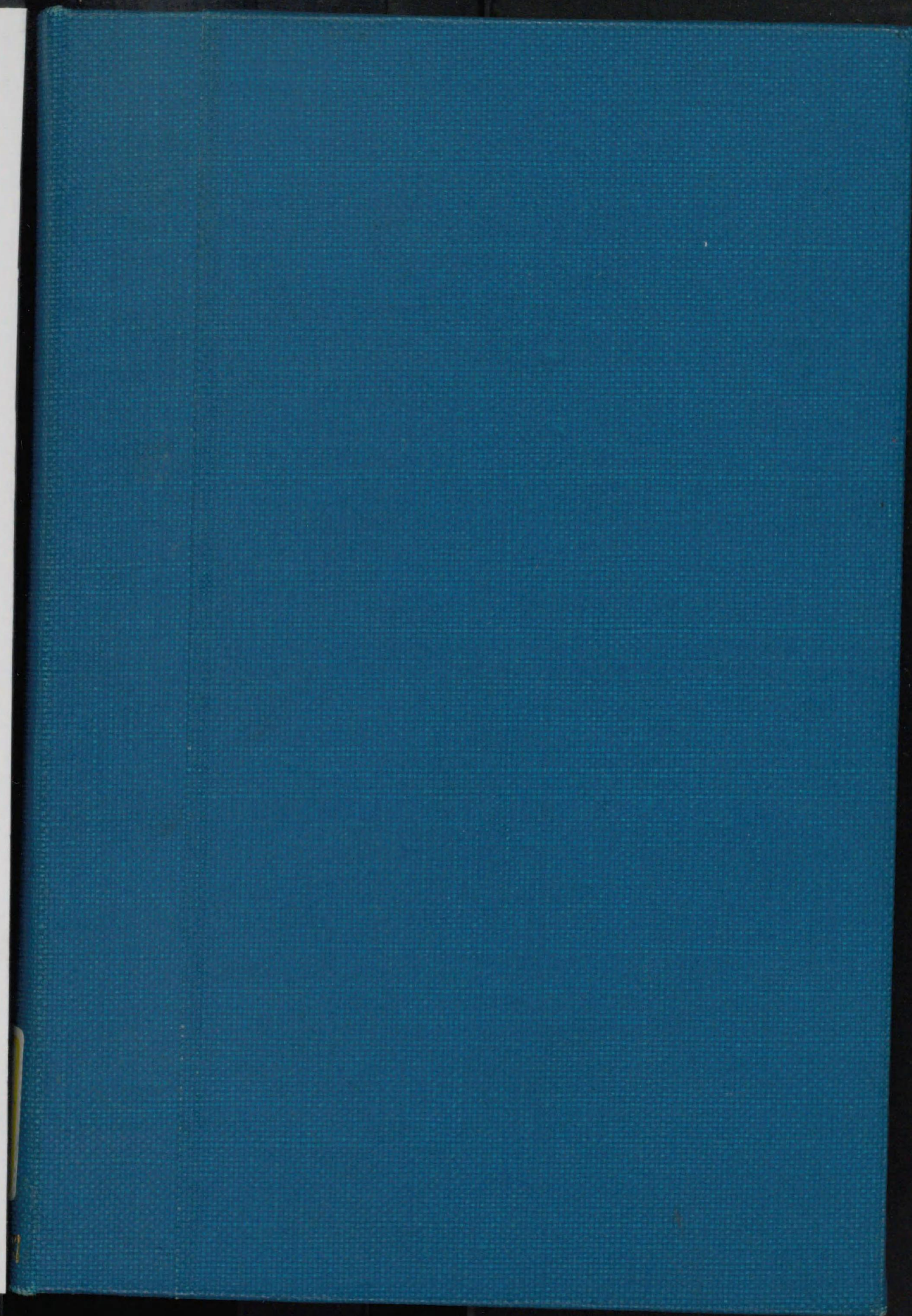
近畿外篇

定價一・六〇 送料一四

中國の卷

定價一・六〇 送料一四



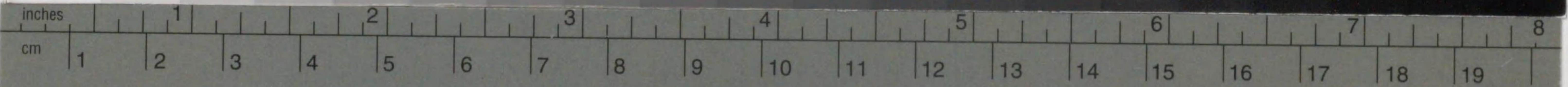


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

